

職員一人ひとりが人権課題への理解を深め、ステークホルダーの人権を尊重してまいります。

●人権啓発に向けて

社会性・公共性を基盤とする生命保険会社においては、あらゆる場面にわたって同和問題・民族問題・女性問題・障がい者問題等の人権問題について正しい理解と認識の上に立ったお客さま対応が要請されています。

行政側も、差別の実態などを企業内研修の中で取り上げ、職員に人権尊重の精神を拡げていくことを指導しています。当社においては、公正採用選考人権啓発推進員(本社は人材開発本部内務教育担当、支社は内務次長)を中心として、社内啓発を推進しております。

また、ハラスメントは被害者個人の尊厳を不当に傷つける人権問題であり、職場秩序や業務遂行を阻害する職場環境問題であると考え、通報・相談窓口を設置するとともに、研修を通じてその問題や対応について周知・徹底に努めてまいります。

1 公正採用選考人権啓発推進員による社内啓発の推進

公正採用選考人権啓発推進員を中心として、社内啓発を推進しています。

2 社外研修会への出席参加

推進員として、支社を代表して運動体や行政主催の各種社外研修会へ積極的に参加し、知識の習得を行います。

3 研修会の実施

本社は、人材開発本部主催で年1回研修会を実施しています。また支社では人材開発本部と連携して実情に応じた研修会を実施しています。

- ※主な研修テーマ
- ・「人権啓発重点目標」と「人権啓発活動強調事項」について
 - ・「障害者差別解消法」について
 - ・「新型コロナウイルス感染症と人権」について
 - ・「インターネットによる人権侵害」について

4 通報・相談窓口の設置

職場におけるパワー・ハラスメントやセクシャル・ハラスメントなど人権侵害行為に関する通報や相談を受け付ける窓口として、「ハラスメント相談窓口」・「社外相談窓口」を設置しています。



研修資料

SDGs達成に向けて貢献してまいります。

SDGsとは、2015年9月に「国連持続可能な開発サミット」で採択された、世界の貧困をなくし持続可能な世界を実現するための国際社会共通の目標(Sustainable Development Goals)のことで、2030年までに解決を目指す国際目標であり、17の目標と169のターゲットで構成されています。

フコク生命の取り組みとSDGs

| ゴール | 取組内容 | ゴール | 取組内容 |
|----------------------|---|-----------------------|--|
| 1 貧困をなくそう | <ul style="list-style-type: none"> ●生命保険業を通じた保障の提供 ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(開発途上国の貧困削減、開発支援、生物多様性の保全)への投資 | 10 人や国の不平等をなくそう | <ul style="list-style-type: none"> ●高齢のお客さまや障がいをお持ちのお客さまへの取組み ●障がい者雇用・女性活躍の推進 ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(障がい者支援)への投資 ●グリーンリボンランニングフェスティバルへの特別協賛 ●障がいをお持ちの生徒作品の展示(「すまいる・ぎやらりー」の開催) |
| 2 飢餓をゼロに | <ul style="list-style-type: none"> ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(フードロス・食品廃棄)への投資 | 11 住み続けられるまちづくりを | <ul style="list-style-type: none"> ●省エネ、省資源への取組み ●被災地への復興応援活動 ●フコク・クリーン倶楽部(FCC)活動 ●環境配慮型の不動産開発 |
| 3 すべての人に健康と福祉を | <ul style="list-style-type: none"> ●生命保険業を通じた保障の提供 ●フコク赤ちゃんとキッズクラブの運営 ●ピンクリボン運動、ハロースマイルへの協力 ●健康経営への取組み ●健康経営配当による企業の健康経営活動を支援 ●グリーンリボンランニングフェスティバルへの特別協賛 ●フコクからサポートの運営 ●地域の福祉への寄付を募る「チャリティコンサート」の開催 | 12 つくる責任 つかう責任 | <ul style="list-style-type: none"> ●省エネ、省資源への取組み ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(フードロス・食品廃棄)への投資 ●食材ロスの削減(「THE MUTUAL」おやさいクレヨン)の配布 ●環境配慮型の不動産開発 |
| 4 質の高い教育をみんなに | <ul style="list-style-type: none"> ●ライフプランセミナーの実施 ●数学の特別授業の実施 ●特別支援学校向けに訪問コンサートを開催 ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(子どもの教育支援)への投資 | 13 気候変動に具体的な対策を | <ul style="list-style-type: none"> ●役職員による山林保護活動「フコク生命(いのち)の森プロジェクト」の実施 ●米州開発銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(適切な森林管理・アグロフォレストリー)への投資 ●クールビズの推進(「THE MUTUAL」ポロシャツの着用) ●世界銀行のグリーンボンドへの投資 ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(生物多様性の保全)への投資 |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう | <ul style="list-style-type: none"> ●フコク赤ちゃんとキッズクラブの運営 ●女性の活躍推進 ●アジア開発銀行のジェンダー・ボンド(ジェンダーの平等化及び女性の活躍推進)への投資 | 14 海の豊かさを守ろう | <ul style="list-style-type: none"> ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(プラスチック廃棄物による海洋汚染問題、生物多様性の保全)への投資 ●プラスチックの削減(「THE MUTUAL」エコバッグの配布) |
| 6 安全な水とトイレを世界中に | <ul style="list-style-type: none"> ●アフリカ開発銀行のインテグレート・アフリカ・ボンド、インフラストラクチャー・ボンドへの投資(アフリカ大陸の地域統合・工業化・インフラ開発の支援) | 15 陸の豊かさも守ろう | <ul style="list-style-type: none"> ●役職員による山林保護活動「フコク生命(いのち)の森プロジェクト」の実施 ●世界銀行のサステナブル・ディベロップメント・ボンド(生物多様性の保全)への投資 |
| 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | <ul style="list-style-type: none"> ●再生可能エネルギープロジェクトへの融資 ●グリーンボンドへの投資 ●環境配慮型の不動産開発 ●アフリカ開発銀行のライト・アップ・アンド・パワー・アフリカ・ボンド(アフリカ大陸の電力普及支援)への投資 | 16 平和と公正をすべての人に | <ul style="list-style-type: none"> ●コーポレートガバナンスの強化 ●コンプライアンスの推進 ●マネー・ローンダリング及びテロ資金供与、反社会的勢力への対応 |
| 8 働きがいも経済成長も | <ul style="list-style-type: none"> ●健康経営への取組み ●働き方改革の推進 ●障がい者雇用の推進 ●仕事と子育て・介護の両立支援 | 17 パートナリーシップで目標を達成しよう | <ul style="list-style-type: none"> ●国連責任投資原則(PRI)への署名 ●スチュワードシップ活動 ●「THE MUTUAL」をコンセプトとした100周年プロジェクトの取組み ●特殊詐欺の被害防止に関する警察との連携 ●自治体との連携協定の推進 ●グリーンリボンランニングフェスティバルへの特別協賛 |
| 9 産業と技術革新の基盤をつくろう | <ul style="list-style-type: none"> ●ITを活用したサービスの提供 ●アフリカ開発銀行のインテグレート・アフリカ・ボンド、インフラストラクチャー・ボンドへの投資(アフリカ大陸の地域統合・工業化・インフラ開発の支援) ●インフラ強化プロジェクトへの融資 | | |



環境へ配慮した活動を推進しております。

温暖化対策をはじめとする気候変動の問題は、持続可能な社会に与える影響が大きいと考えております。当社は、環境保護への取組み（省エネ・省資源への取組み・山林保護活動）や資産運用を通じた取組み（ESG 投融資）などを通じて、環境へ配慮した活動を推進しております。

TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース) 提言への対応

当社は2020年6月に、金融安定理事会により設置された気候関連財務情報開示タスクフォースの提言（以下、TCFD 提言）への賛同を表明しました。TCFD 提言への賛同は、気候変動問題の重要性を認識したうえで、安心で持続可能な社会の実現を目指す当社の姿勢を表明するものです。



| | |
|--------------|--|
| ガバナンス | サステナビリティワーキンググループにて、気候変動問題を含むSDGs取組状況のモニタリングを行い、取締役会に報告しております。 |
| 戦略 | <p>気候変動関連リスクの適切な管理を通じて、収益の下振れを抑制するとともに、収益獲得の機会としても活用してまいります。</p> <p>【リスク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地球温暖化に伴う台風や洪水などの自然災害の発生による保険金等の支払増加や、平均気温上昇に伴う蚊を媒介とする熱帯性感染症などの発生による疾病罹患率・死亡率の上昇（物理的リスク） ○低炭素・脱炭素社会への移行に伴う政策変更や技術革新などによる投融資資産の価値の毀損（移行リスク） ○気候変動問題の主因である温室効果ガスの排出削減に取り組まないことによる評判の悪化（風評リスク） <p>【機会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○気候変動がもたらす様々なリスクによる保障ニーズの増加 ○気候変動問題の解決に資する企業やプロジェクトへの投融資による運用収益の獲得機会の増加 ○減災などの取組みによるステークホルダーからの評価の向上 |
| リスク管理 | <p>地球温暖化および大規模水害に伴うリスクをエマージングリスクとして特定し、発生の可能性と影響度の評価を行い、統合的リスクの観点で管理しております。</p> <p>【物理的リスク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平均気温の上昇による熱帯感染症の流行についてシナリオテストを実施し、保険金および給付金の増加額の定量的評価を行い、財務への影響を確認 ○大規模水害（高潮および洪水）について営業拠点ごとのリスクを5段階で評価 <p>【移行リスク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○低炭素・脱炭素社会への移行に伴う政策変更や技術革新などにより生じる信用リスクや市場リスクの適切な管理とその高度化 |
| 指標と目標 | <p>【生命保険事業者】</p> <p>指標：事業活動に伴うCO₂排出量 目標：2030年度までに2013年度比46%削減、2050年度までにネットゼロ</p> <p>【機関投資家】</p> <p>指標：運用ポートフォリオにおけるCO₂排出量（国内上場企業の株式・債券・融資を対象） 目標：2050年度までにネットゼロ</p> |

● 環境保護への取組み

「フコク生命(いのち)の森」プロジェクト

2006年度より、環境保護活動に参加・体験することのできる場として、「竹害^{*}対策」を主とした「フコク生命(いのち)の森」プロジェクトを行っております。

「フコク生命(いのち)の森」プロジェクトは、当社が静岡県伊東市宇佐美に保有する山林を保全するため、竹林伐採を当社役職員の手によって行う活動です。森の再生だけでなく、間伐により竹林自体も健全な状態に戻していくことを目標とし、社内の有志により組織された「宇佐美倶楽部」が中心となって進めています(2022年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、活動を再開)。



※放置された孟宗竹が森林を侵食。根の浅い竹林が、地すべりや表土の流失の原因ともなり、山林の荒廃や土砂崩れなどの災害を引き起こします。

フコク・クリーン倶楽部(FCC)活動

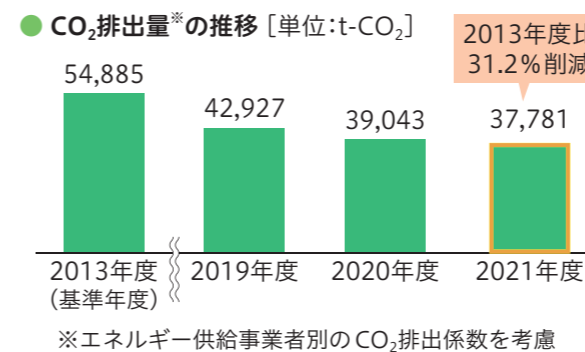
2006年度より、千葉ニュータウン本社勤務者有志の団体「フコク・クリーン倶楽部(FCC)」による、最寄駅「北総鉄道千葉ニュータウン中央駅」の駅前清掃活動を実施しております。



省エネ・CO₂排出量削減の取組み

当社は、事業活動に伴うCO₂排出量(社有不動産および賃借事務所の消費エネルギーを換算)を2030年度までに2013年度比46%削減することを目標に、高効率空調設備やLED照明、昼光・人感センサー等の導入に取り組んでおります。千葉ニュータウン本社では、太陽光と風力を利用したハイブリッド屋外灯を12基設置するなど省エネに努めております。

その結果、2021年度のCO₂排出量は2013年度比で31.2%削減となりました。



環境配慮型の不動産開発

当社は、建物の新築の際に省エネや環境に配慮した不動産開発を行っており、2010年に竣工した大阪富国生命ビルは、大阪市建築物総合環境評価制度において、「第5回顕彰建築物CASBEE大阪 OF THE YEAR 2010」の表彰を受けております。

また、2017年に竣工した札幌フコク生命越山ビルは、米国の環境性能評価システムLEEDにおいて札幌では初となるゴールド認証や、DBJ(日本政策投資銀行)のGreen Building認証制度において4つ星を取得しました。

さらに2019年度に竣工した小岩フコク生命ビルでは、国が推進する建築物省エネルギー性能表示制度(BELS)において、ZEB Ready 認証を取得しました。2022年度においては、賃貸用マンションとして竣工したパークアクシス千歳船橋で、ZEH-M Oriented認証を取得しております。



小岩フコク生命ビル 大阪富国生命ビル 札幌フコク生命越山ビル



パークアクシス千歳船橋

よりよい社会づくりのため、さまざまな社会貢献活動に取り組んでおります。

● 芸術文化(アート)をとおして、つながっていくさまざまな活動

芸術文化(アート)には、「さまざまな人々をつなげていく力」があります。当社はこれまでクラシック音楽のコンサート活動を通じ、多くのお客さまや地域の方々、また障がいのある子どもたちと音楽をとおして、つながってまいりました。そして、こうした芸術文化(アート)による活動は、コンサートだけにとどまらず、さまざまな活動へと発展・成長し続けております。

「フコク生命 訪問&チャリティコンサート」

この活動は、1989年度に始まった内幸町本社ビルでのロビーコンサート「フコク・サロンコンサート」から発展してきました。

プロの音楽家による本物のクラシック音楽を、特別支援学校や障がい者施設の方々へお届けする「訪問コンサート」と、地域の福祉にお役立ていただくために、ご来場の方から募金に協力していただく「チャリティコンサート」を、同じ地域であわせて開催しております。

「チャリティコンサート」は、2022年度末までに通算301回開催し、寄付総額は約6,470万円となりました。



2022年度フコク生命 訪問&チャリティコンサート 開催実績

| 支社 | 訪問コンサート | | | チャリティコンサート | | |
|----|---------|------------|----------------|------------|------------|-------------|
| | 回数 | 開催日 | 訪問先 | 回数 | 開催日 | 会場 |
| 甲府 | 253 | 2022年6月16日 | 山梨県立かえで支援学校 | 300 | 2022年6月15日 | 山梨県立県民文化ホール |
| 金沢 | 254 | 2022年10月4日 | 石川県立いしかわ特別支援学校 | 301 | 2022年10月3日 | 北国新聞赤羽ホール |

(訪問先敬称略)

「すまいる・こんさーと」

より多くの特別支援学校や障がい者施設などへ「音楽の贈り物」をお届けするために、2022年度から「訪問&チャリティコンサート」のうち「訪問コンサート」のみを全国で開催しております。



2022年度フコク生命 すまいる・こんさーと 開催実績

| すまいる・こんさーと | | | | | | | |
|------------|----|-------------|-----------------|--------|----|-------------|-------------------------|
| 主催 | 回数 | 開催日 | 訪問先 | 主催 | 回数 | 開催日 | 訪問先 |
| 松本支社 | 1 | 2022年 7月 6日 | 長野県稲荷山養護学校 | 千葉NT本社 | 10 | 2022年11月14日 | 千葉県立印旛特別支援学校 |
| 松本支社 | 2 | 2022年 7月11日 | 長野県松本養護学校 | 千葉NT本社 | 11 | 2022年11月15日 | 千葉県立我孫子特別支援学校 |
| 松本支社 | 3 | 2022年 7月12日 | 長野県飯田養護学校 | 松山支社 | 12 | 2022年11月30日 | 愛媛県立みなら特別支援学校 松山城北分校 |
| 函館支社 | 4 | 2022年 9月 7日 | 北海道教育大学附属特別支援学校 | 松山支社 | 13 | 2022年12月 1日 | 愛媛県立みなら特別支援学校 |
| 函館支社 | 5 | 2022年 9月 8日 | 北海道七飯養護学校 | 内幸町本社 | 14 | 2023年 2月 3日 | 東京都立足立特別支援学校 |
| 仙台支社 | 6 | 2022年 9月20日 | 宮城県立船岡支援学校 | 東京湾岸支社 | 15 | 2023年 2月 8日 | 東京都立江東特別支援学校 |
| 仙台支社 | 7 | 2022年 9月21日 | 宮城県立角田支援学校 | 東京支社 | 16 | 2023年 2月 9日 | 東京都立城東特別支援学校 |
| 沖縄支社 | 8 | 2022年10月20日 | 沖縄県立島尻特別支援学校 | 内幸町本社 | 17 | 2023年 2月28日 | 東京都立光明学園 |
| 沖縄支社 | 9 | 2022年10月21日 | 沖縄県立那覇特別支援学校 | | | | |

(訪問先敬称略)

「フコク生命パートナー・アーティスト」

コンサートに出演するのは、当社の活動趣旨に賛同し、相互理解を深めた「フコク生命パートナー・アーティスト」です。

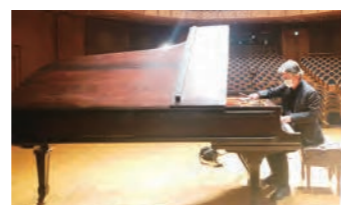
単なる出演者ではなく、ともにさまざまなプログラム創りなども行い、活動を進めていく重要なパートナーです。日本フィルハーモニー交響楽団のメンバーや、国内外で活躍するトップレベルの音楽家で構成されています。



「フコク生命パートナー・コンサート・チューナー」

「フコク生命 訪問&チャリティコンサート」の趣旨に賛同していただいているタカギクラヴィア株式会社に、「フコク生命パートナー・コンサート・チューナー」として当社のコンサート活動をサポートしていただいております。

世界三大名器の一つである「スタインウェイ」社製のピアノを、ホールまで自社で運搬・搬入し、ピアニストの個性に合わせた調律はコンサートの要となっています。



ピアノの調律風景

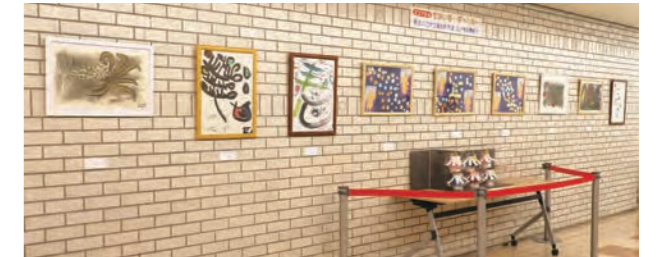
「すまいる・ぎやらりー」～特別支援学校生徒作品展～

2012年度より、障がいのある子どもたちのアート制作を応援する活動として、内幸町本社ビル地下2階の商店街壁面を利用して、全国の特別支援学校生徒の美術作品を展示する企画「すまいる・ぎやらりー」を開催しております。

この活動は、当社が2003年度から行ってきた特別支援学校へお伺いして開催する「訪問コンサート」とおした交流の中から生まれました。

作品の発表の場を提供することで、少しでも障がいのある子どもたちのアート制作を応援できればと思っております。

なお、100周年特設WEBサイトから、出展作品をご覧いただけるようになりました。



当社内幸町本社ビル地下2階の商店街壁面に作品を展示

2022年度「すまいる・ぎやらりー」出展校

| | |
|-----------------|-----------------------|
| 福島県立須賀川支援学校 | 宮城県立石巻支援学校 |
| 千葉県立矢切特別支援学校 | 国立大学法人筑波大学附属聴覚特別支援学校 |
| 福島県立郡山支援学校 | 福島県立猪苗代支援学校 |
| 北海道教育大学附属特別支援学校 | 福島県立平支援学校 |
| 福島県立石川支援学校 | 岩手県立釜石祥雲支援学校・しゃくなげ分教室 |
| 福島県立大笹生支援学校 | 福島県立西郷支援学校 |

(開催時期順・敬称略)



当社作成のカレンダー

METライブビューイングへの協賛

ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場(MET)で上演されたオペラ公演をハイビジョン映像で映画化し、上映する「METライブビューイング(松竹株式会社配給)」に協賛しております。最上級のオペラ芸術に接する機会をご提供する活動に協賛することで、芸術文化振興に貢献しております。

2022-23シーズンも、2022年9月よりニューヨーク・メトロポリタン歌劇場にて開幕し、引き続き、「METライブビューイング2022-23」に協賛しております。



《ローエングリン》©Marty Sohl / Metropolitan Opera

被災地への復興応援活動(被災地特産品販売会)

東日本大震災で被災した福島県・宮城県・岩手県の東北3県の「被災地特産品販売会」を、2011年度より内幸町本社・千葉ニュータウン本社にて継続して開催しております。

2022年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じ、対面での販売を再開しました。

また各県販売会の開催時に、千葉ニュータウン本社地下食堂にて、各県特産品を使用した特別メニューとご当地弁当を販売し、その代金の一部を被災地に寄付しました。



岩手県特産品販売会



千葉ニュータウン本社地下食堂での特別メニュー
宮城・伊豆沼コースとんかつ

千葉ニュータウン本社地下食堂での特別メニュー
福島・白河ラーメン

ご当地弁当

ピンクリボン運動、Hellosmile (ハロースマイル) への協力

当社では、2008年度より乳がん検診の大切さを伝え、患者さんを支えていくピンクリボンフェスティバルへの協賛などを通じ、ピンクリボン活動を支援しております。

2011年度からは子宮頸がんの予防啓発を推進するプロジェクトの支援も行っております。

具体的な取組みとして、当社職員がピンクリボンバ

ジやHellosmileバッジをつけ「啓発パンフレット」などをお客さまに配布して、検診の大切さを伝えるなどの活動を行っております。



認知症サポーター認定取得の推進

2018年10月より認知症の方へ適切な対応ができるよう認知症サポーター認定の推進を開始しました。2023年5月1日時点で8,460名が認知症サポーター認定を取得し、認知症症状のある方やそのご家族に接する機会があった際、適切な手助けを行っております。

また2019年度から全国の支社・本社に自前で認知症サポーター養成講座を実施する「認知症キャラバン・メイト」を配置しました。



「特殊詐欺」被害防止に向けた啓発活動への協力

社会問題となっている「特殊詐欺」の被害防止に協力するため、お客さまアドバイザーと各都道府県警察が共同で使用可能な特殊詐欺被害防止啓発用のチラシ・ティッシュを作成しました。2022年度までに32都道府県の警察にご協力いただき、警察署にチラシ・ティッシュを配備していただく、駅前などでお客さまアドバイザーと共同で配布するなどしてご活用いただいております。



各都道府県警と共同で作成しているティッシュ (画像は旭川版)

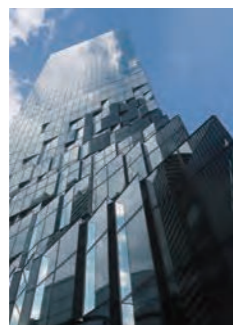


各都道府県警と共同で作成しているチラシ (画像は旭川版)

大阪富国生命ビルでの産学連携活動への支援

2010年に竣工の大阪富国生命ビルは、瓜生山学園京都芸術大学「大阪サテライトキャンパス」、立命館大学「大阪梅田キャンパス」など、大学関係施設や産学連携活動の支援施設などを誘致し、芸術文化、健康などに開する情報を地域社会に発信しております。

また、大阪大学の先生方が中心となり設立された植物研究を通じた緑豊かな生活環境の構築を目指す「智の木協会」へも参画しております。



社有不動産活用による待機児童解消に向けた取組み

待機児童問題などの社会的な課題解決へ貢献するため社有不動産に保育所等を積極的に誘致しており、現在では、東京都に2カ所、埼玉県、大阪府、和歌山県に各1カ所ずつ開設され、地域の皆さまにご利用いただいております。



ESG 投融資について

ESG 投融資に対する基本的な考え方

当社は、「ご契約者の利益擁護」という経営理念のもと、生命保険という商品の負債特性を踏まえながら、安全かつ有利の原則に従い、将来にわたって高水準の運用収益を確保する資産運用を実践するとともに、「生命保険事業を営む相互会社として、持続可能な社会の実現に貢献する」という経営方針に則り、ESG (環境・社会・ガバナンス) 課題を考慮した投融資に取り組んでいます。ESG 投融資は、お客さまからお預かりしている大切な資金の収益性向上に資すると同時に、「社会への貢献」を経営理念の一つに掲げる当社の機関投資家としての責務をより一層果たしうものと考えています。

このような考えのもと、当社は、2016年3月に国連の責任投資原則 (PRI) に署名し、投融資の意思決定プロセスにESG 課題を組み込んでいるほか、スチュワードシップ活動においてはESG 課題をテーマの一つとし、投資先企業との対話などに注力しています。また、2020年6月には、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) の提言に賛同しました。

今後も、気候変動を含む社会の持続可能性に影響を及ぼす様々な課題に対する問題意識を持ち、一定の収益性を確保することを前提として、ESG 投融資やスチュワードシップ活動の取組みを推進し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

責任投資原則 (PRI) の署名

当社は、国連の責任投資原則 (PRI) の趣旨に賛同し、2016年3月21日に署名機関となりました。同原則では、持続可能な社会の実現を後押しするために、ESG 課題を投資の意思決定プロセスに組み込むことなどが示されています。

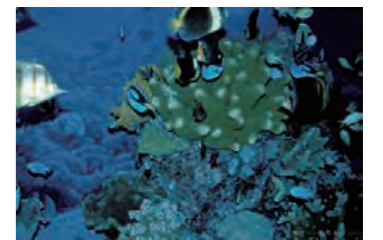


ESG 投融資の主な取組事例

「生命保険事業を営む相互会社として、持続可能な社会の実現へ貢献する」という経営方針に則り、環境問題を含む社会的課題の解決につながるテーマを持った資産等への投融資に取り組んでおります。

●生物多様性の保全を支援する取組み

2022年9月に世界銀行が発行するサステナブル・ディベロップメント・ボンドへの投資を実施しました。世界銀行が「生物多様性の保全」の重要性を啓発することを目的として初めて発行する債券です。本債券への投資は、自然資本に資金を提供する世界最大級の金融機関である世界銀行による生物多様性を含む幅広い分野の開発プロジェクトを後押しするものです。*



©World Bank

※世界銀行がサステナブル・ディベロップメント・ボンドの発行により調達した資金は、世界銀行が開発途上国のために取り組むあらゆる分野の開発プロジェクトへの融資を支えています。

●電力の普及支援への取組み

2023年3月にアフリカ開発銀行が発行する「ライト・アップ・アンド・パワー・アフリカ・ボンド」への投資を実施しました。この債券は、アフリカ大陸における電力の普及支援を目的とするものです。この目的のもと、アフリカ開発銀行が取り組む事例には、ルワンダ共和国における電力へのアクセス改善プロジェクトなどがあります。



Photo credits: AfDB

●リサーチへの組込み

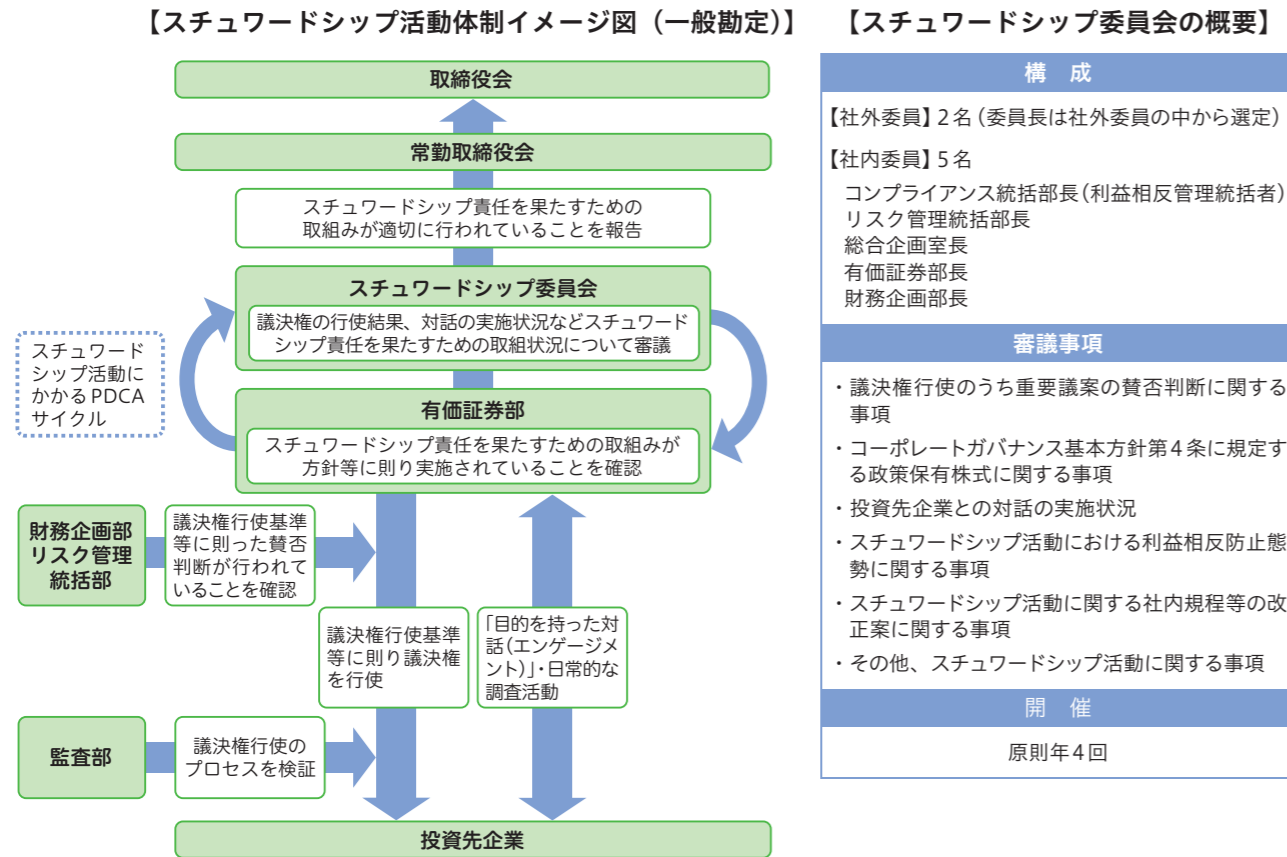
国内株式について、銘柄選定の際、PRI 署名機関でESG 評価にかかる豊富なノウハウを有する子会社の富国生命投資顧問より提供されるESG スコアにもとづくスクリーニングを実施しているほか、スチュワードシップ活動において把握したESG 情報も投資判断の要素に含めております。また、一部の債券についてESG 情報にもとづくスクリーニングを実施しております。

ESG 投融資の実績

上記のような取組みの結果、2022年度のESG 投融資新規実行額は454億円となりました。また、2022年度末のESG 投融資残高は約6,200億円と、運用資産全体の9%超を占めております。

●スチュワードシップ活動

当社は、「責任ある機関投資家」の諸原則「日本版スチュワードシップ・コード」を受け入れ、「スチュワードシップ責任を果たすための方針」「スチュワードシップ責任を果たすに当たり管理すべき利益相反についての方針」「議決権行使についての方針」を制定し、主要投資先企業との建設的な「目的を持った対話」(エンゲージメント)に注力しております。スチュワードシップ委員会では、議決権の行使結果や対話の実施状況などスチュワードシップ責任を果たすための取組み状況を審議し、その内容は取締役会に報告しております。社外委員を委員長とするスチュワードシップ委員会での審議内容を踏まえつつPDCAサイクルを継続的に実践し、スチュワードシップ活動の透明性および実効性の向上を図っております。引き続き、投資先企業とのエンゲージメントや議決権行使などのスチュワードシップ活動を通じ投資先企業の持続的成長を促し、お客さまからお預かりした大切な資金の中長期的なリターンの拡大に資するよう努めてまいります。なお、スチュワードシップ活動の詳細については、当社のホームページで公表しております。



●運用ポートフォリオの温室効果ガス排出量

運用ポートフォリオの温室効果ガス排出量では、2050年度ネットゼロの実現を目指しています。2021年度の総排出量(対象資産は国内上場株式、国内企業の社債・融資、測定対象は投融資先企業のScope1+Scope2)は約183万tCO_{2e}となっています。

フコク生命は相互会社として透明性の高い経営に努めております。

●コーポレートガバナンス体制

コーポレートガバナンスの基本的な考え方

当社は、保険契約者が保険団体を構成し互いに助け合うために、その構成員となる相互会社こそが、以下の経営理念の実現に最適であると判断しています。

- ご契約者の利益擁護
- 社会への貢献
- 働く職員の自己実現

相互会社における保険事業はご契約者の事業であり、当社は、その保険事業の業務運営をご契約者から任せ

ています。そして、その負託に応え、保険金や給付金等を確実に支払うという責務を果たし続けるためには、いかなるがあっても生命保険会社として存続していかなければなりません。当社は、持続的かつ安定的に事業を継続し、ご契約者に安心を提供するため、この基本方針にもとづきコーポレートガバナンス体制を構築します。

コーポレートガバナンス基本方針

当社は相互会社であり、コーポレートガバナンス・コードの適用対象ではありません。しかしながら、当社のコーポレートガバナンスに対する考え方およびその充

実に向けた取組みをご理解いただくために、「コーポレートガバナンス基本方針」「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」と共に公表しております。

「コーポレートガバナンス基本方針」および「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」の全文は、当社ホームページに掲載しております。

<https://www.fukoku-life.co.jp/about/profile/corporategovernance/index.html>



■コーポレートガバナンス体制図

